

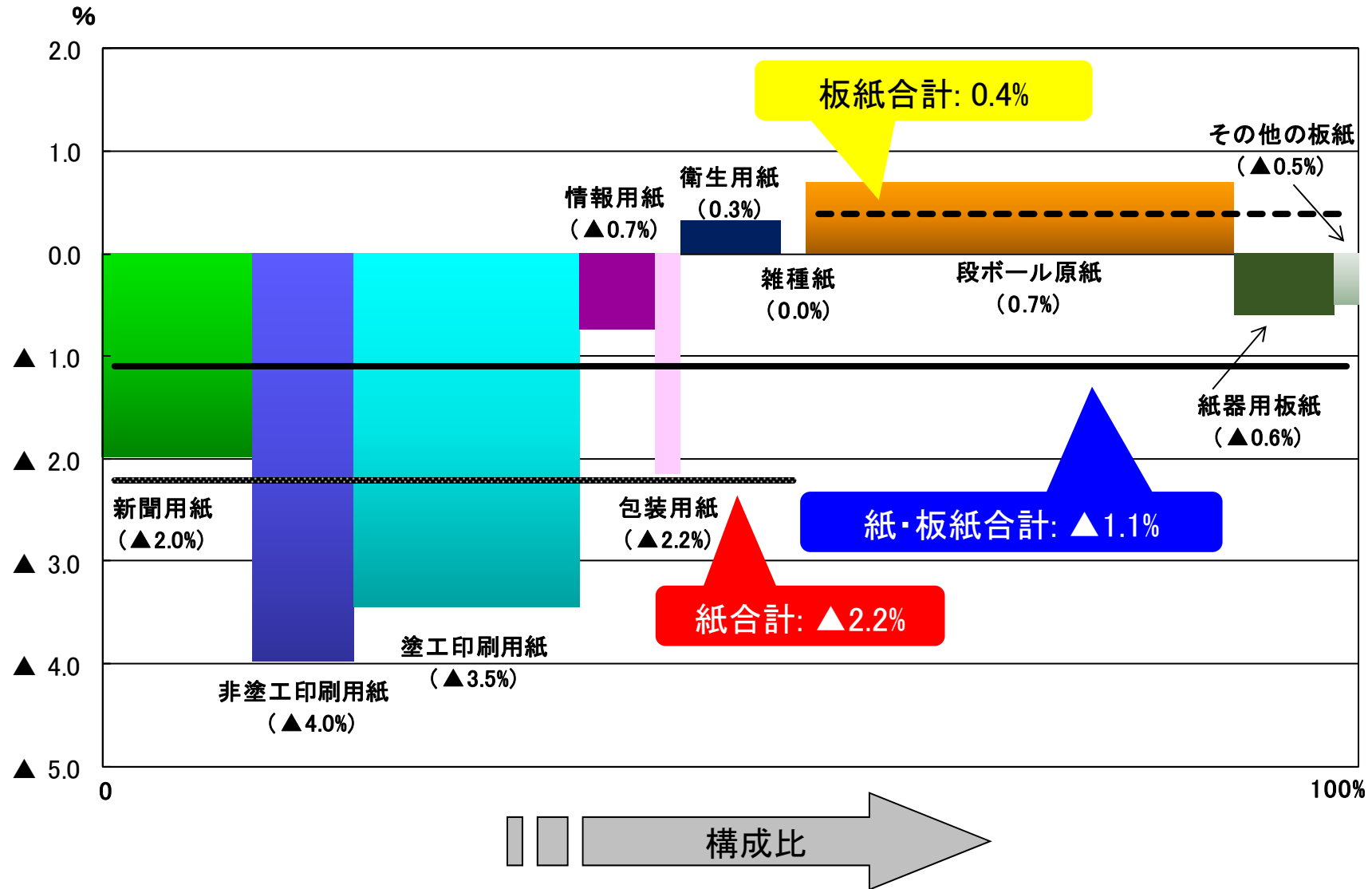
2016 (平成28)年紙・板紙内需試算報告

平成28年1月20日

日本製紙連合会

- I . 2016(平成28)年 紙・板紙内需試算(総括)…P3～5
- II . 2016(平成28)年 品種別内需試算…P6～21
- III . 2015年 紙・板紙内需実績見込み…P22
- IV . 参考…P23～24

JPA I. 2016 (平成28)年紙・板紙内需試算 ①成長率と構成比



JPA ②2016(平成28)年紙・板紙内需試算(実績推移及び見通し)

(単位:千トン、%:対前年増減率)

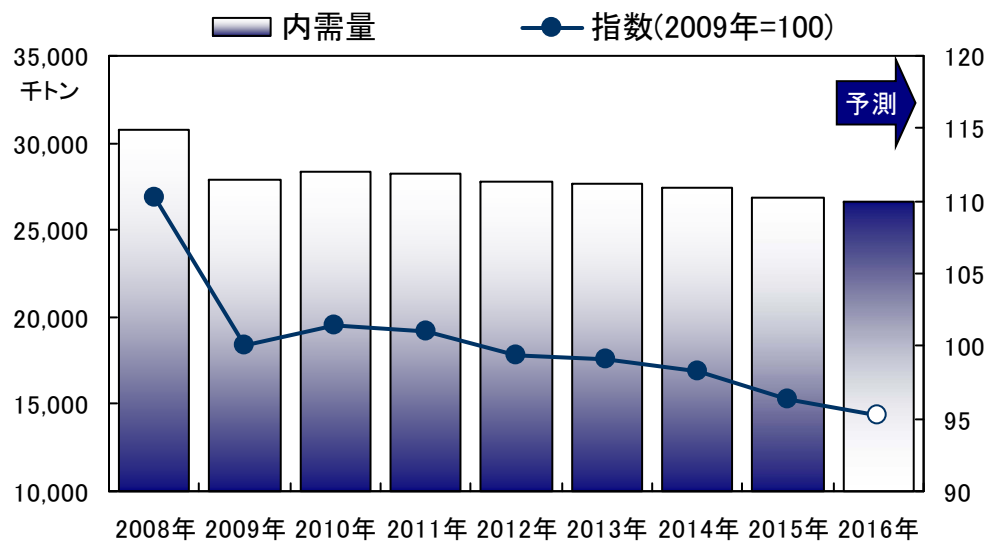
品 種	2008年		2009年		2010年		2011年		2012年		2013年		2014年		2015年見込み		2016年見通し		
	数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率	
新聞用紙	3,632	▲ 2.3	3,414	▲ 6.0	3,349	▲ 1.9	3,245	▲ 3.1	3,305	1.8	3,247	▲ 1.7	3,181	▲ 2.0	3,033	▲ 4.6	2,973	▲ 2.0	
非塗工印刷用紙	2,830	▲ 7.3	2,583	▲ 8.7	2,493	▲ 3.5	2,428	▲ 2.6	2,350	▲ 3.2	2,301	▲ 2.1	2,230	▲ 3.1	2,126	▲ 4.7	2,041	▲ 4.0	
塗工印刷用紙	6,512	▲ 4.5	5,694	▲ 12.6	5,570	▲ 2.2	5,602	0.6	5,476	▲ 2.3	5,391	▲ 1.5	5,170	▲ 4.1	4,965	▲ 4.0	4,793	▲ 3.5	
情報用紙	2,010	0.2	1,847	▲ 8.1	1,886	2.1	1,853	▲ 1.8	1,849	▲ 0.2	1,839	▲ 0.6	1,831	▲ 0.5	1,812	▲ 1.0	1,799	▲ 0.7	
印刷・情報用紙計	11,352	▲ 4.4	10,123	▲ 10.8	9,949	▲ 1.7	9,883	▲ 0.7	9,676	▲ 2.1	9,531	▲ 1.5	9,231	▲ 3.2	8,902	▲ 3.6	8,633	▲ 3.0	
包装用紙	942	▲ 3.9	781	▲ 17.1	852	9.1	825	▲ 3.2	776	▲ 6.0	761	▲ 1.9	766	0.6	730	▲ 4.7	714	▲ 2.2	
衛生用紙	1,832	0.6	1,836	0.2	1,856	1.1	1,873	0.9	1,880	0.4	1,895	0.8	1,945	2.6	1,934	▲ 0.5	1,940	0.3	
雑種紙	822	▲ 5.8	713	▲ 13.2	797	11.8	768	▲ 3.7	744	▲ 3.2	728	▲ 2.1	758	4.1	746	▲ 1.5	746	0.0	
紙 計	18,579	▲ 3.6	16,867	▲ 9.2	16,804	▲ 0.4	16,595	▲ 1.2	16,380	▲ 1.3	16,162	▲ 1.3	15,880	▲ 1.7	15,346	▲ 3.4	15,007	▲ 2.2	
板	ライナー	5,485	▲ 2.4	5,024	▲ 8.4	5,232	4.1	5,285	1.1	5,207	▲ 1.5	5,276	1.3	5,330	1.0	5,334	0.1	5,371	0.7
	中芯原紙	3,697	▲ 2.1	3,372	▲ 8.8	3,496	3.7	3,515	0.6	3,477	▲ 1.1	3,511	1.0	3,547	1.0	3,548	0.0	3,573	0.7
	段ボール原紙計	9,182	▲ 2.3	8,397	▲ 8.6	8,728	3.9	8,800	0.9	8,684	▲ 1.3	8,788	1.2	8,877	1.0	8,882	0.1	8,945	0.7
	白板紙	2,038	1.6	1,886	▲ 7.4	1,939	2.8	1,975	1.9	1,888	▲ 4.4	1,901	0.7	1,858	▲ 2.3	1,845	▲ 0.7	1,832	▲ 0.7
	黄テップ・色板	182	▲ 5.0	151	▲ 17.1	155	2.8	155	0.0	143	▲ 7.7	144	0.8	146	1.2	145	▲ 1.0	145	0.0
紙器用板紙計	2,220	1.0	2,037	▲ 8.2	2,094	2.8	2,130	1.7	2,031	▲ 4.7	2,046	0.7	2,004	▲ 2.0	1,989	▲ 0.7	1,976	▲ 0.6	
その他の板紙	776	▲ 10.5	612	▲ 21.1	667	9.0	672	0.6	651	▲ 3.1	669	2.8	674	0.7	650	▲ 3.5	647	▲ 0.5	
板 紙 計	12,177	▲ 2.3	11,046	▲ 9.3	11,489	4.0	11,602	1.1	11,366	▲ 2.0	11,503	1.2	11,555	0.5	11,522	▲ 0.3	11,568	0.4	
紙・板紙計	30,756	▲ 3.1	27,913	▲ 9.2	28,293	1.4	28,197	▲ 0.3	27,746	▲ 1.6	27,665	▲ 0.3	27,434	▲ 0.8	26,868	▲ 2.1	26,575	▲ 1.1	

注) 千トン未満を四捨五入しているため、合計と積み上げた数量の計とは合わない場合がある。なお、対前年増減率はトンベースによる。

JPA ③2016(平成28)年紙・板紙内需試算増減要因

プラス要因	マイナス要因
<p>①景気回復の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実質GDPのプラス予想。企業業績は堅調 ・雇用状況の改善。所得は増加へ <p>②消費増税(8→10%)前の駆け込み需要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅、自動車、家電等、耐久財需要が増加 <p>③インバウンド効果の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人の増加による消費需要 ・海外進出した製造業の国内回帰への動き <p>④イベント開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢志摩サミット(5月) ・参議院議員選挙(7月) ・ブラジル・リオデジャネイロ五輪(8月) <p>⑤商業施設、ホテルの増加に伴う関連需要</p> <p>⑥食品・医薬・健康関連市場は堅調</p> <p>⑦利便性を求めた販売チャンネルの多様化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニやネット通販等の利用が増加 <p>⑧うるう年</p>	<p>①構造的要因の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ■人口減／少子高齢化 ■電子媒体へのシフト <ul style="list-style-type: none"> ・紙の出版物減少や広告の紙離れ ・企業や自治体等におけるペーパーレス化 ・スマートフォン等の普及による電子媒体利用の加速 ■包装合理化の動き <ul style="list-style-type: none"> ・省包装/簡素化の動き ・包装資材の他素材へのシフト ・段ボール原紙の軽量化の進展 <p>②新興国経済の減速</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出や投資意欲の減少懸念

JPA II. 2016(平成28)年品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計

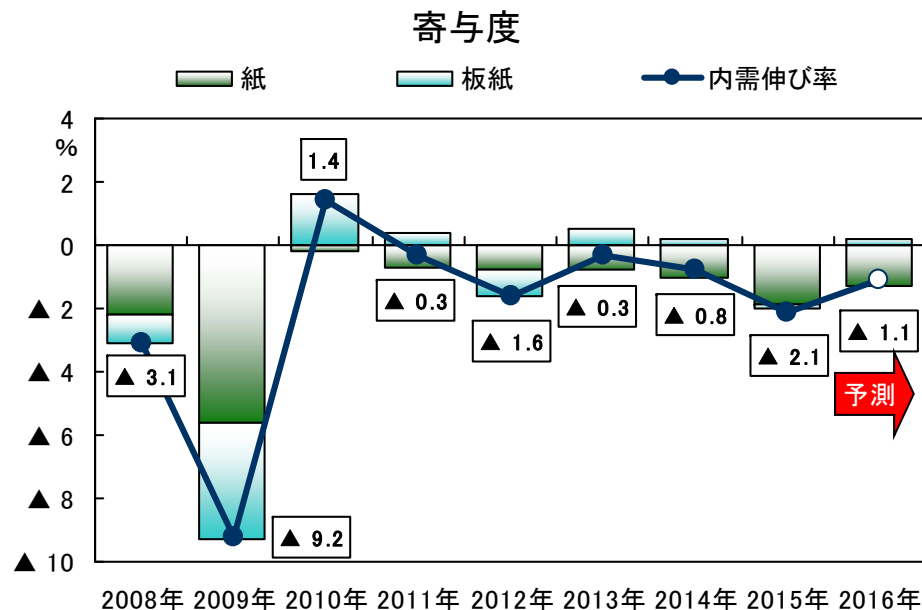


「近年の動向」

★紙・板紙の内需はリーマン・ショック直後の2009年に大きく数量を落とし、2010年にプラスとなったものの、2011年以降はマイナスが続いている。2015年は、前年の消費増税による駆け込み需要の反動から、1-3月は紙、板紙ともに減少(紙:5.7%減:板紙:3.6%減)。4-6月以降、板紙はプラスを示したものの、紙はマイナスが続き、紙・板紙の内需は通年で2.1%減と5年連続のマイナスとなった。サプライ別には、国内出荷は2年連続の減少、輸入は3年連続の減少となった。

「2016年予測」

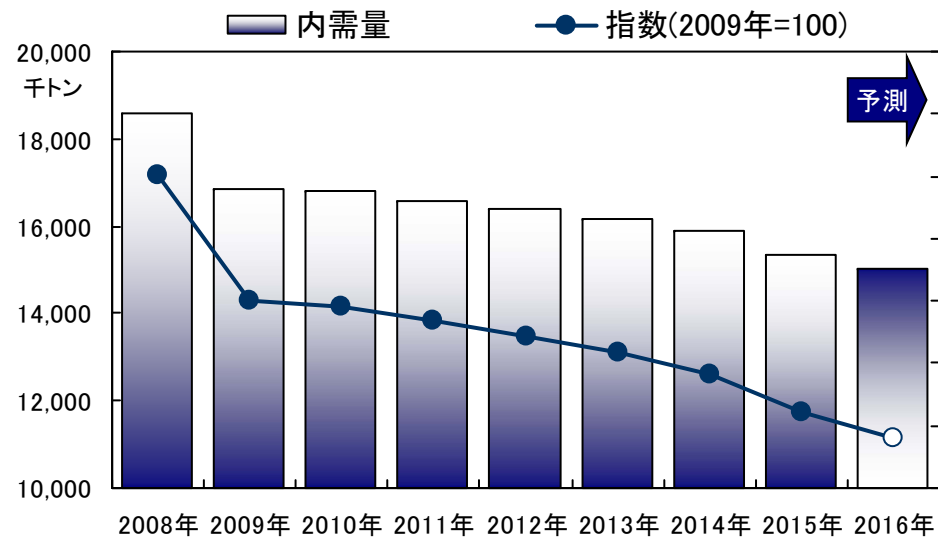
☆2016年の景気は、新興国経済の減速による影響等が懸念されるが、企業業績は堅調と見られ、インバウンド効果も引き続き見込まれることから、緩やかに回復することが予想される。こうした経済環境の下、板紙は堅調な食品分野を中心に増加を見込むものの、紙は電子媒体へのシフトやペーパーレス化等から減少し、紙・板紙全体の内需は前年を下回ると予測した。



☆紙・板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は2,658万トン、前年に対して1.1%減、約29万トンの減少。マイナス成長は6年連続。過去の実績値と比較すると、リーマン・ショック直後の2009年(2,791万トン)に対し95.2%、約134万トンの減少。

☆紙・板紙別寄与度は、紙は1.3pt減、板紙は0.2pt増と、紙のマイナスが全体を押し下げる結果になっている。

JPA (2) 紙合計



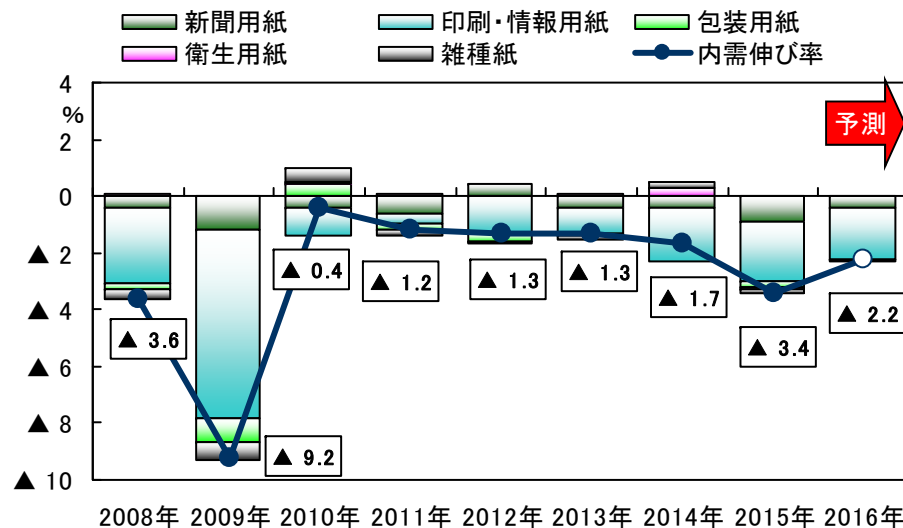
「近年の動向」

★紙の内需は、リーマン・ショック直後の2009年に大きく数量を落とし、2010年以降もマイナスが続いている。2015年は前年に消費増税に伴う駆け込み需要があったことから、その反動で1-3月は大きく減少、4-6月以降は減少幅縮小も、マイナスで推移した。通年では各主要品種がマイナスとなり、全体では3.4%減と9年連続で前年を下回った。サプライ別には、国内出荷は2年連続の減少、輸入は3年連続で減少した。

「2016年予測」

☆主要品種について、衛生用紙は微増を予測したが、新聞用紙、印刷・情報用紙、包装用紙は他媒体へのシフト、ペーパーレス化、省包装化等によりマイナスと予測した。

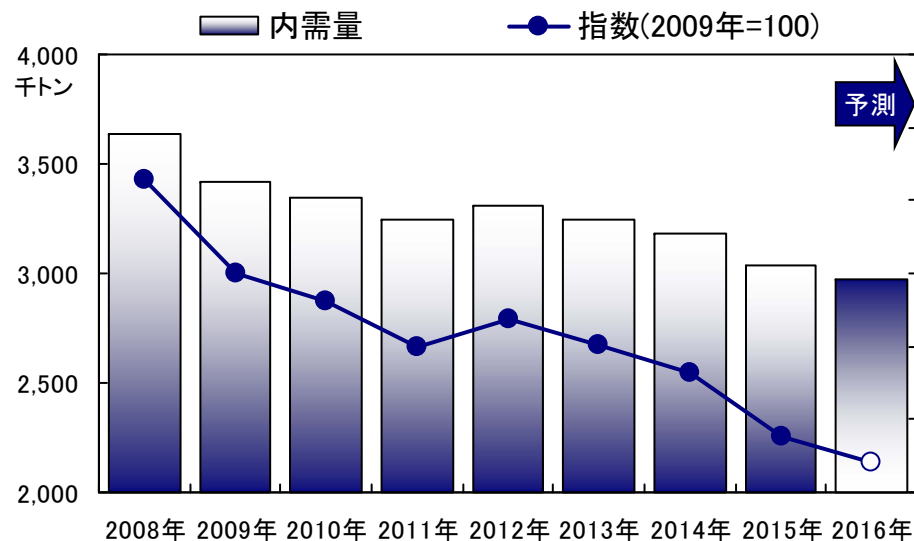
寄与度



☆紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,501万トン、前年に対して2.2%減、約34万トンの減少となる。マイナス成長は10年連続。過去の実績値と比較すると、リーマン・ショック直後の2009年(1,687万トン)に対し89.0%、約186万トンの減少となる。

☆品種別寄与度は、新聞用紙は0.4pt減、印刷・情報用紙は1.8pt減、包装用紙は0.1pt減、衛生用紙は0.0pt増となっている。

JPA (3) 新聞用紙



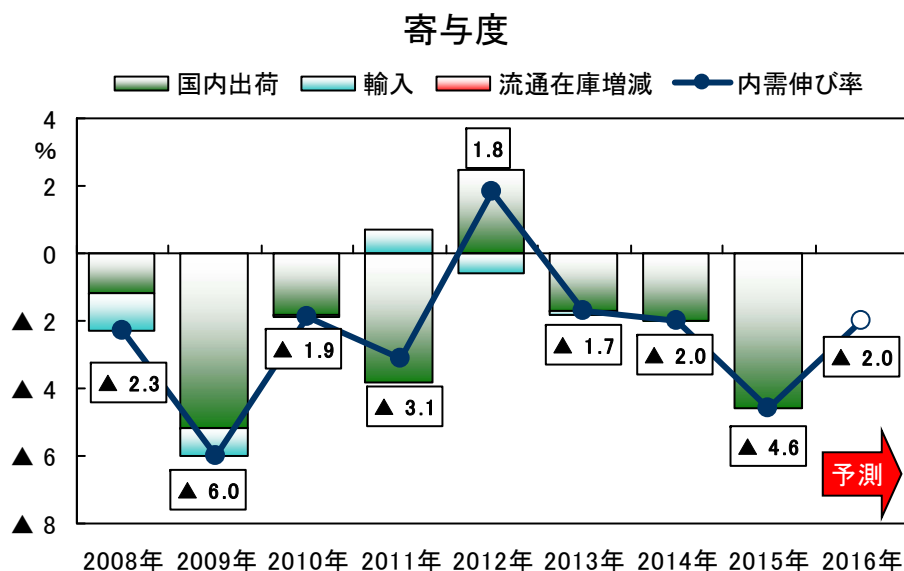
「近年の動向」

★新聞用紙の内需は、情報収集手段の多様化に伴い若年層を中心に新聞離れが進んでいることや、広告主のマス媒体からネット等へのシフトといった構造要因により、減少傾向が続いている。2012年は、うるう年のため発行日数が1日多かったことなどにより、6年ぶりにプラスとなったが、2013年は再びマイナスに転じた。2014年は、1-3月は消費増税を前に広告出稿が増加したことから前年水準を上回ったが、4月以降は発行部数減の影響が大きく、通年では前年割れ。2015年も発行部数減などにより引き続きマイナスとなっている。

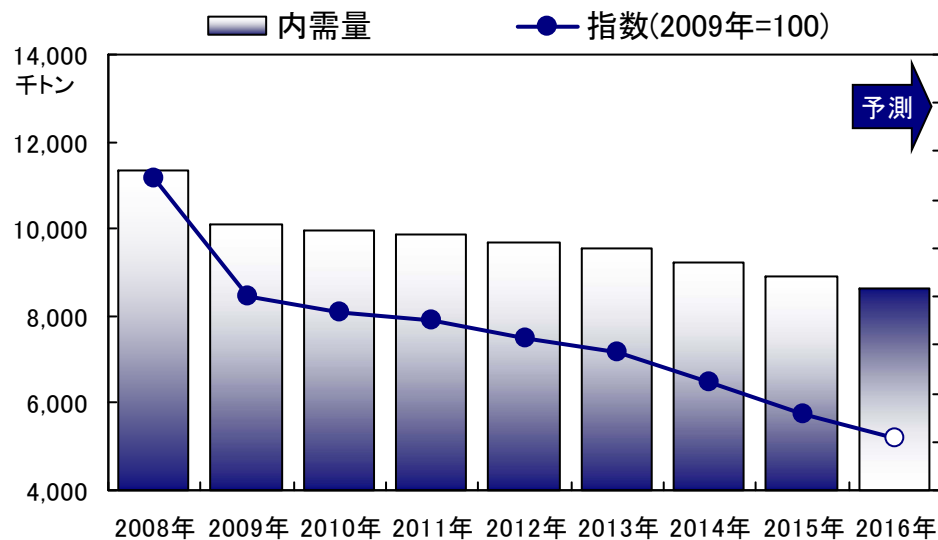
「2016年予測」

☆新聞用紙の内需は、基本的に発行部数と頁数の増減によって決まる。頁数は、広告出稿の動きに影響を受けるが、企業業績改善を背景に広告市場拡大が予想されるものの、広告の他媒体へのシフトが続くことから、広告出稿は低調に推移すると見られる。このため、頁数についても増加は期待できない。発行部数は、減少は続くものの、減少幅は前年に比べ縮小すると予想される。スポット要因としては、うるう年による朝刊発行日数増、参議院選挙、リオデジャネイロ・オリンピックがあり、需要押し上げが期待される。

☆以上を勘案し、新聞用紙の内需は前年に対し2.0%の減少を見込んだ。



JPA (4) 印刷・情報用紙

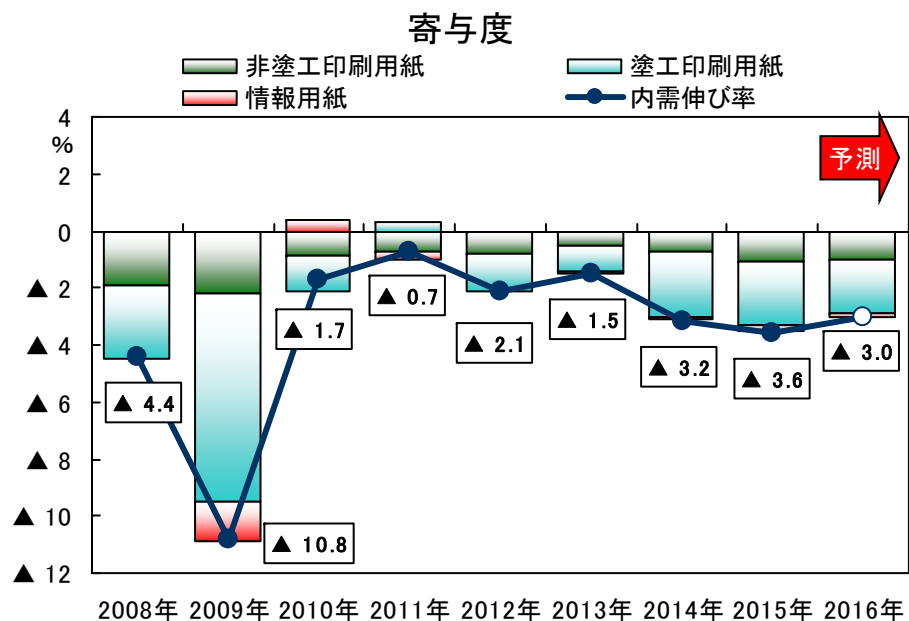


「近年の動向」

★印刷・情報用紙の内需は、2006年をピークに縮小を続けている。特にリーマン・ショック直後の2009年には大きく数量を落とした。2015年は前年に消費増税に伴う駆け込み需要があったことから、その反動で1-3月の減少幅は5%を超えた。4-6月以降も前年を下回って推移し、年間では3%を超える減少となった。主要品種は、情報用紙は底堅く推移したが、印刷用紙(非塗工、塗工)は減少し、全体では9年連続の減少。サプライ別には国内出荷(2年連続)、輸入(3年連続)ともに前年を下回った。

「2016年予測」

☆非塗工、塗工、情報ともに電子化やペーパーレス化等により減少継続を見込む。

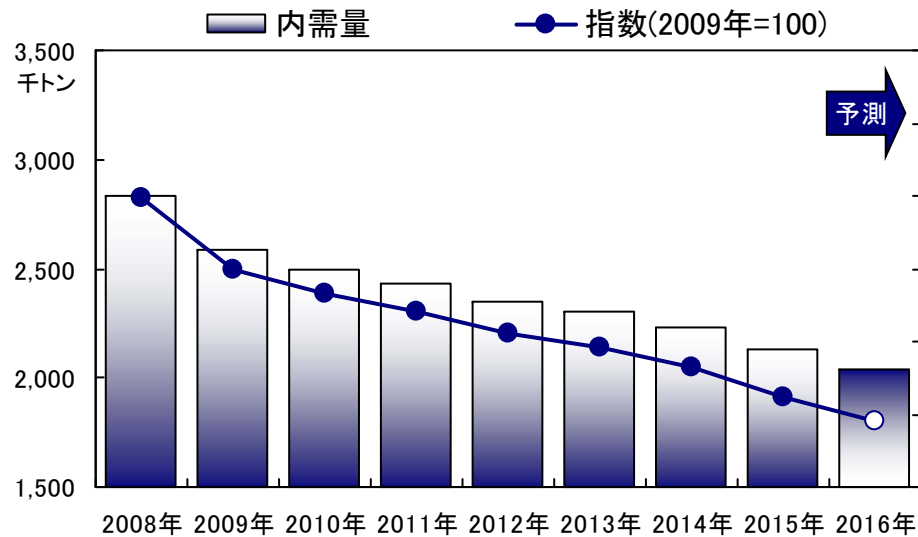


☆印刷・情報用紙の合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は863万トン、前年に対し3.0%減、約27万トンの減少となる。マイナス成長は10年連続。

☆品種別寄与度は、非塗工印刷用紙は1.0pt減、塗工印刷用紙は1.9pt減、情報用紙は0.1pt減と、印刷用紙を中心にいずれもマイナスとなっている。

☆詳細については当該品種頁参照。

JPA (4)-① 非塗工印刷用紙



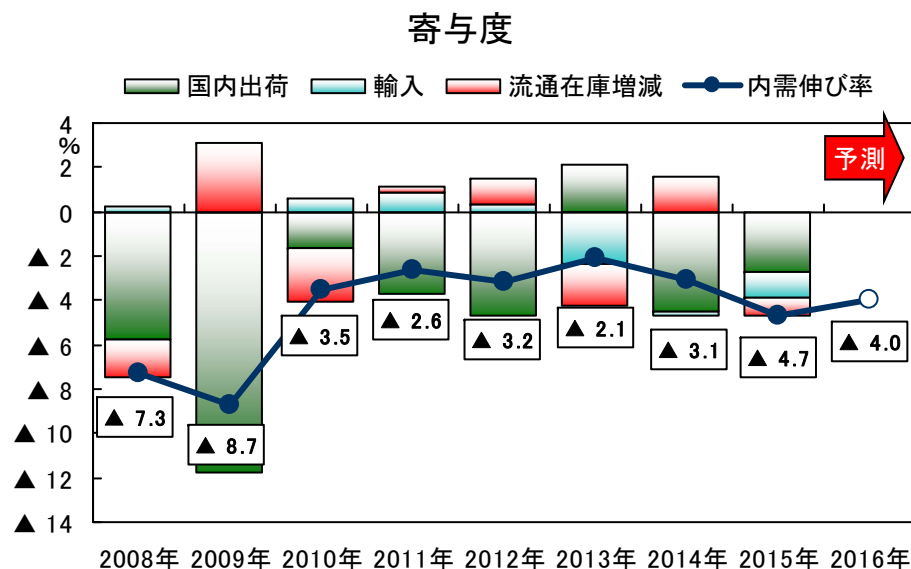
「近年の動向」

★印刷・情報用紙のうち、非塗工印刷用紙の内需は、長引く出版不況の影響等により中・下級印刷紙を中心に減少を続けている。2015年は前年に消費増税に伴う駆け込み需要があったことから、その反動で1-3月の減少幅は6%を超えた。4-6月以降は減少幅縮小も、前年を下回って推移し通年では上級印刷紙、中・下級印刷紙、薄葉・特殊印刷紙とも減少、全体では2005年以降、11年連続で前年を下回った。サプライ別にみると、国内出荷(2年連続)、輸入(3年連続)ともに前年を下回った。

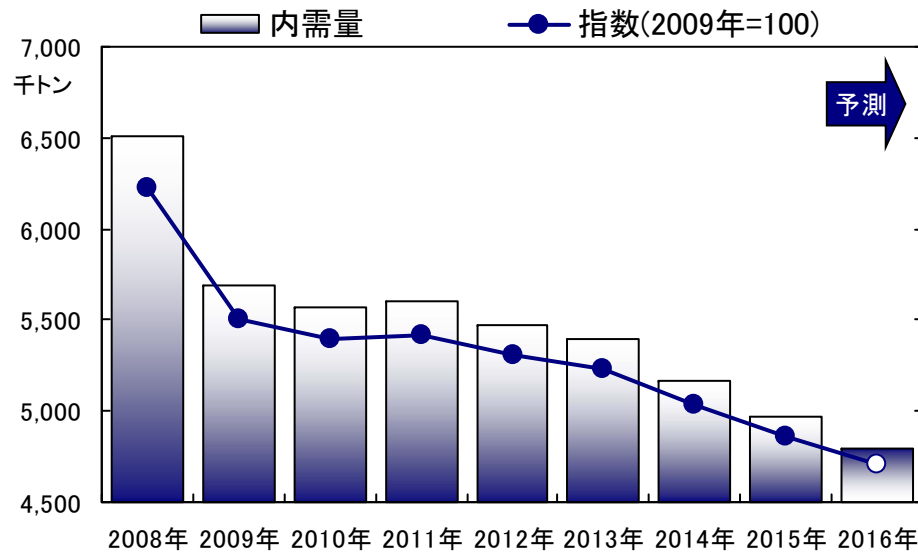
「2016年予測」

☆上級印刷紙は、汎用性がありチラシや目論見書・取扱説明書など底堅い需要があるものの、引き続きICT化に伴う帳票類等の減少や小口印刷物の内製化といった動きにより、前年を下回ると予想する。中・下級印刷紙は、主たる需要先である出版業界を取り巻く環境が依然厳しく、書籍、雑誌ともに返品率削減対策から部数を絞る方向。特に雑誌は、スマートフォンやタブレット端末など電子媒体の普及による情報源や娯楽の多様化等により引き続き不振が予想される。

☆以上を勘案し、非塗工印刷用紙の内需は前年に対し4.0%の減少を見込んだ。



JPA (4)- ② 塗工印刷用紙



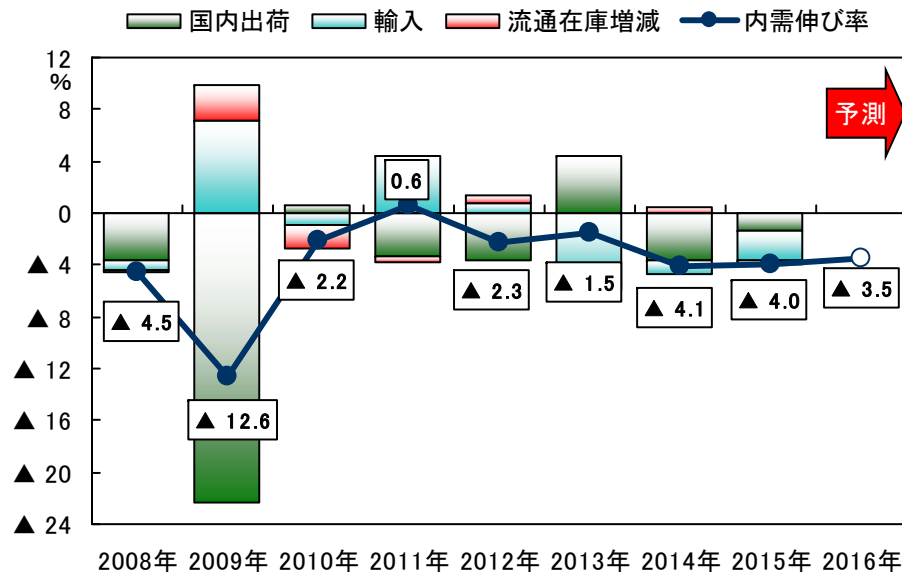
「近年の動向」

★印刷・情報用紙のうち、塗工印刷用紙の内需は、2007年より縮小、特にリーマン・ショック直後の2009年に大きく減少し、その後も縮小傾向にある。2015年は前年の消費増税に伴う駆け込み需要の反動減に加えて、ICT化等の影響もあり、商業印刷向けを中心に主要品種は前年割れとなった。サプライ別には、国内出荷(2年連続)、輸入(3年連続)ともに前年を下回った。

「2016年予測」

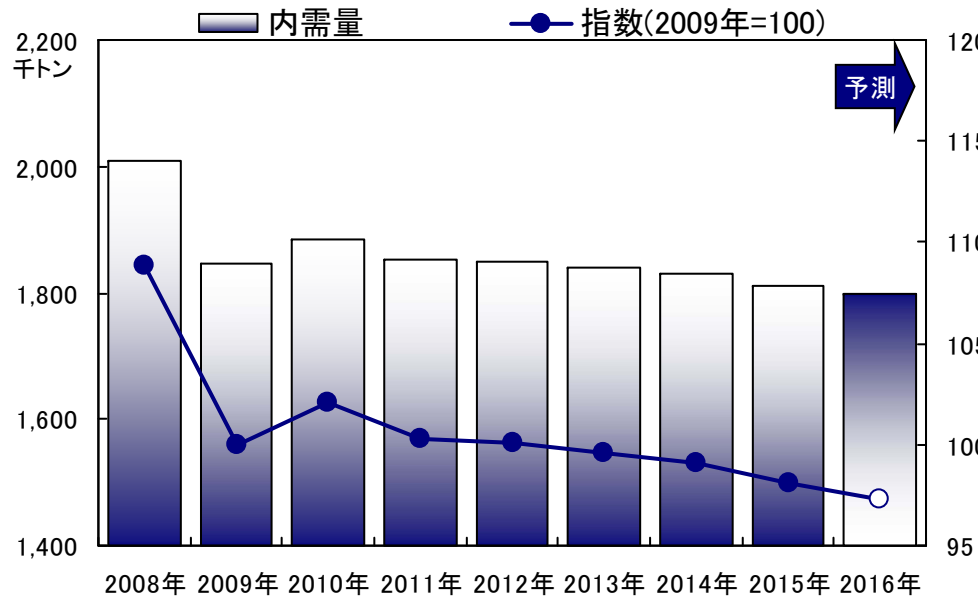
☆景気の緩やかな上昇が見込まれるなか、好調な企業業績を背景に自動車、不動産、旅行等の広告増が予想されるが、紙媒体の需要増は期待できない。需要各社の継続的なコスト削減に加えて、ICT化に伴う電子チラシ、ネット広告等、他の広告媒体へのシフトや低米坪化が続くと見られる。また、カタログ、チラシ等、販促用商業印刷については部数減やサイズダウン等により引き続き低調に推移するものと予想される。

寄与度



☆以上を勘案し、塗工印刷用紙の内需は前年に対し3.5%の減少と予測した。主力品種は上質コート、軽量コート、微塗工紙、いずれも前年を下回ると見込んだ。

JPA (4)-③ 情報用紙

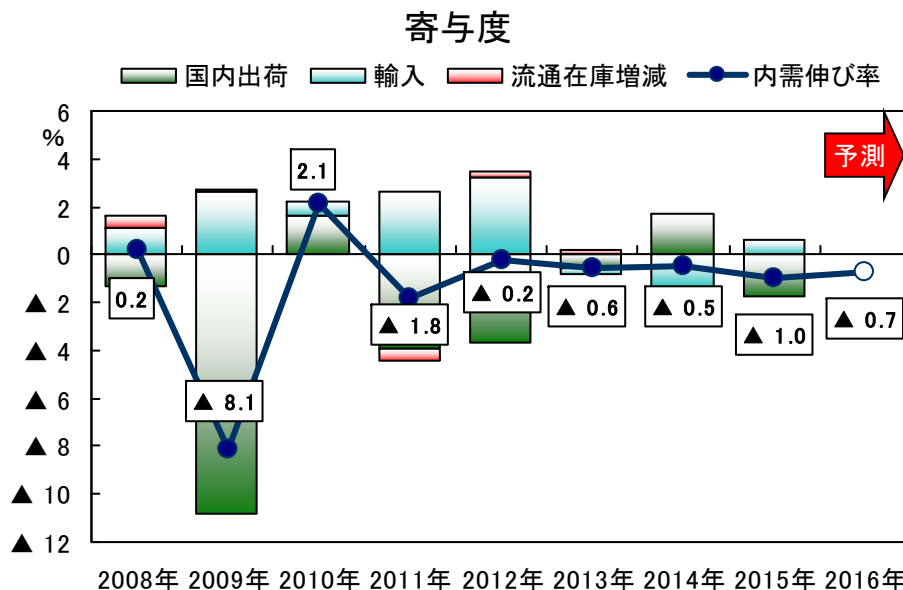


「近年の動向」

★情報用紙の内需は、2009年に大幅に減少した後、2010年は反動増や国勢調査に伴うスポット需要等から増加に転じた。2011年以降は印刷用紙よりは比較的底堅い動きとなっているが、減少が続いている。品種別では、PPC用紙が印刷内製化などを背景に底堅い推移を示しているのに対し、フォーム用紙や複写原紙は、電子媒体へのシフトやカット紙化の影響が大きいことから不振が続いている。サプライ別では、輸入が2008年から2011年にかけて大きく拡大した後も高止まりしており、2015年については国内出荷が前年を下回ったのに対し、輸入はプラスとなっている。

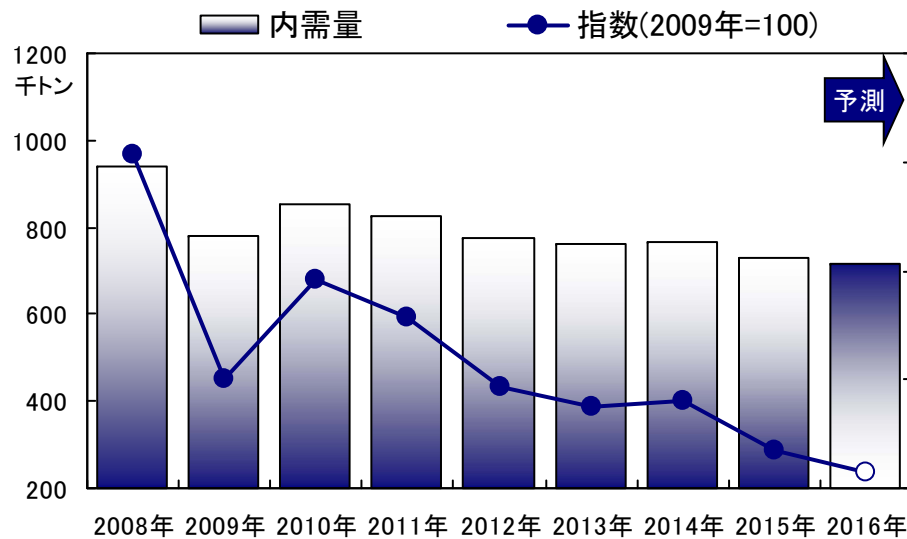
「2016年予測」

☆PPC用紙は汎用性・利便性の高さから、底堅い需要が見込まれる。ユーザーの節約志向は根強いものがあるが、他品種(フォーム用紙等)からのシフトもあって、前年と同水準程度は期待できる。フォーム用紙は、デザインフォームのDM向け等は底堅い需要が期待できるものの、電子化、カット紙化の進展により、全体として減少継続が予想される。複写原紙については、カット紙化やペーパーレス化等により、前年を下回る見通し。情報記録紙については、物流分野での感熱紙ラベル等、堅調な分野もあるが、電子化の影響等もあり、全体としては概ね前年並みとなる見通し。



☆以上を勘案し、情報用紙の内需は前年に対し0.7%の減少を見込んだ。

JPA (5) 包装用紙



「近年の動向」

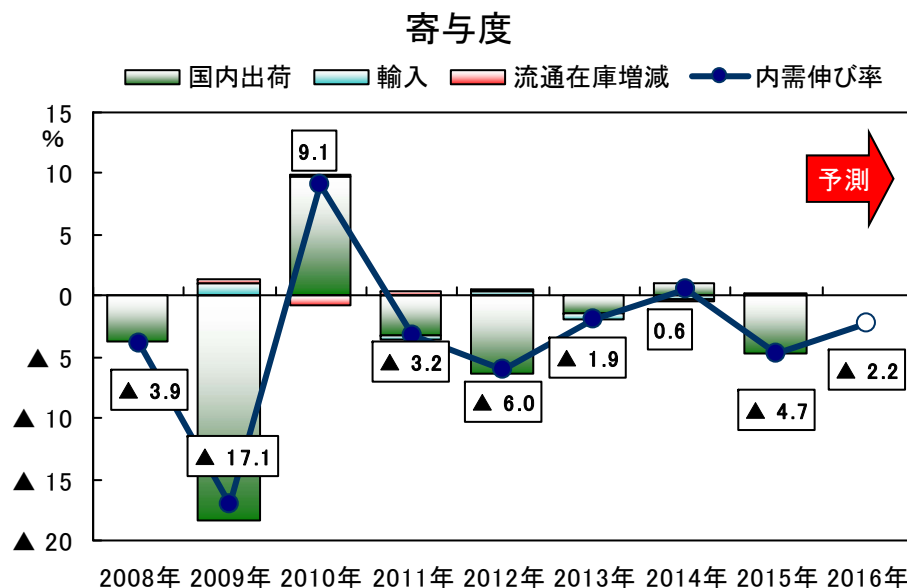
★ 内需はリーマン・ショック直後の2009年に大きく落ち込んだが、翌年には反動増となった。その後は省包装の流れに加え、ポリ等他部材へのシフトが進む等、減少傾向となっている。2014年は消費増税前の駆け込み需要や、原油の高値により他部材へのシフトに一服感がでたと思われ、需要は4年振りに増加した。2015年はその反動や急速な原油安に伴う他部材の価格競争力の高まりもあり、再び前年を下回った。

「2016年予測」

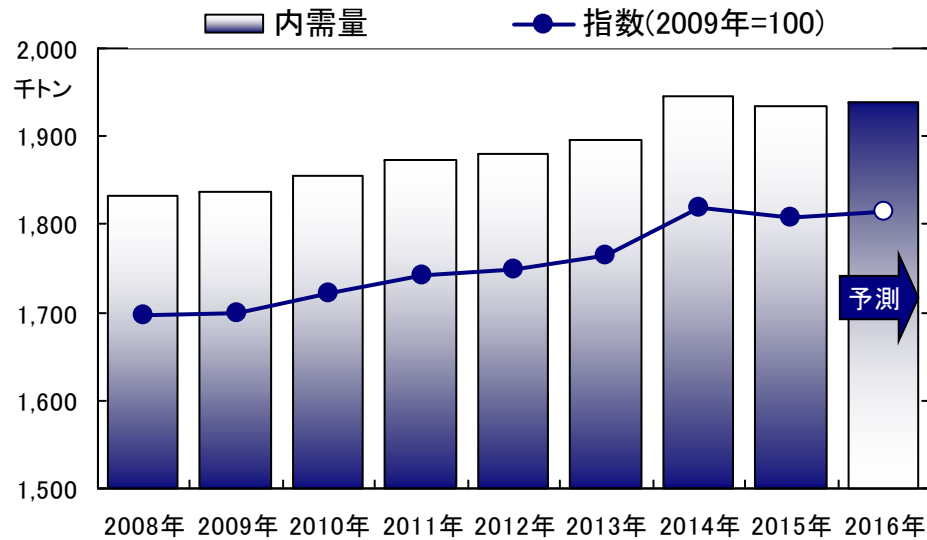
☆ 重包装(重袋)に関しては、主要用途である①合成樹脂向けが、輸入樹脂の減少に伴う国内出荷の伸びにより堅調。また輸出向け用も伸びると予想しプラス、②米麦向けは飼料米生産への転換の進展やフレコン(軟包装)へのシフトの動き等からマイナス、③製粉向けはほぼ横ばいと予想。以上により、需要は横ばいと予想した。

☆ 軽包装は、角底袋はコンビニのレジ回り需要や宅配袋需要は堅調と見るが、手提向けでは軟包装へのシフトもあり、マイナスと予想した。封筒需要は国勢調査及びマイナンバー特需の反動に加え、WEB化、圧着ハガキ化及び他品種、他部材へのシフトが続きマイナス予想。加工向けは、食品・薬品向けは底堅いが、建材向け等その他は伸び悩みマイナスを予想する。

☆ 以上を勘案し、包装用紙の内需は前年に対し2.2%の減少を見込んだ。



JPA (6) 衛生用紙



「近年の動向」

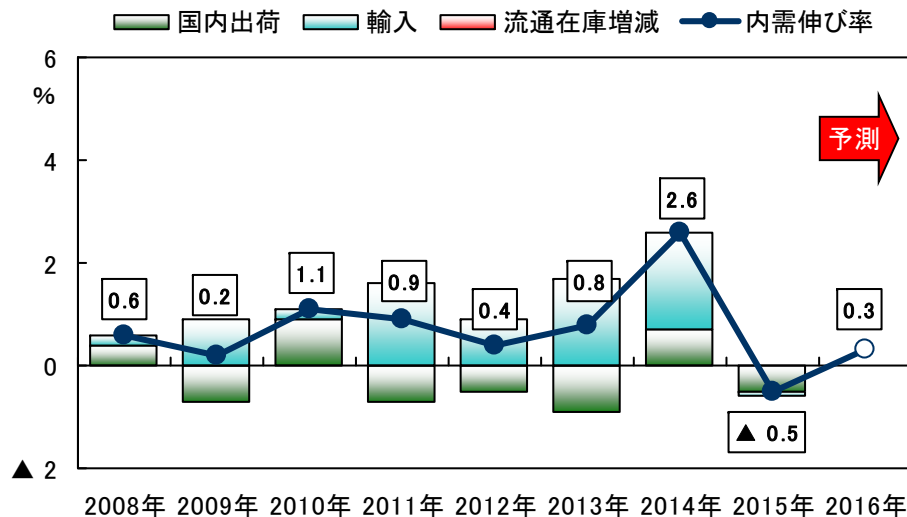
★衛生用紙の内需は、生活必需品としての底堅い需要等から2008年から2014年まで増加した。2015年は、前年の消費増税に伴う駆け込み需要の反動で1-3月は大きく減少。その後の需要は堅調で4月以降は概ねプラスとなったが、通年では微減となり、8年ぶりの減少となった。サプライ別に見ると、国内出荷は2年ぶりの減少、輸入は9年ぶりの減少となった。

「2016年予測」

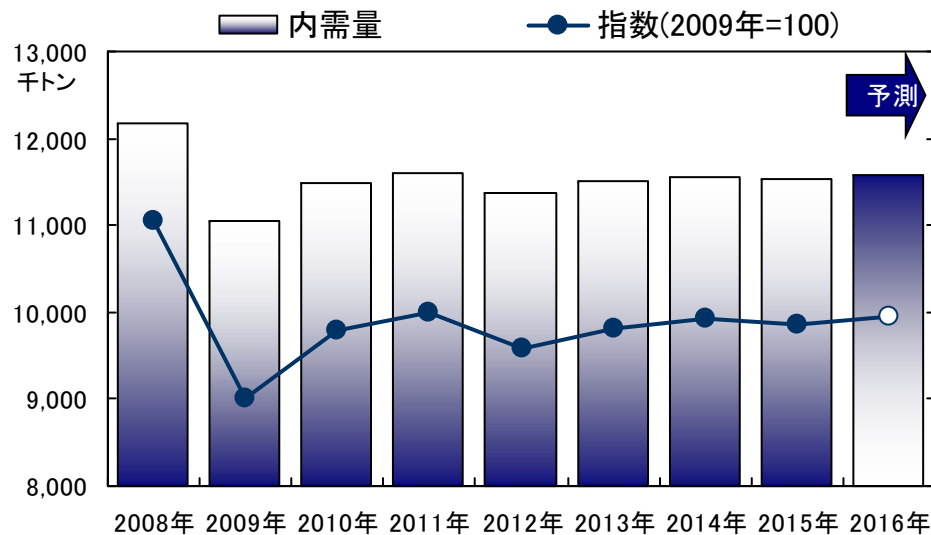
☆衛生用紙は人口減少といったマイナス要因はあるものの、生活必需品としての底堅い需要や、訪日外国人の増加、世帯数の増加等から微増ではあるが、プラスを予測。品種別で見ると、①ティシュペーパーは高付加価値製品の需要、②トイレトペーパーは訪日外国人の増加による業務用需要、③タオル用紙は商業施設・ホテルの増加に伴う需要、がそれぞれ見込まれることから、衛生用紙全体の需要は堅調に推移する見通し。

☆以上を勘案し、衛生用紙の内需は前年に対し0.3%の増加を見込んだ。

寄与度



JPA (7) 板紙合計

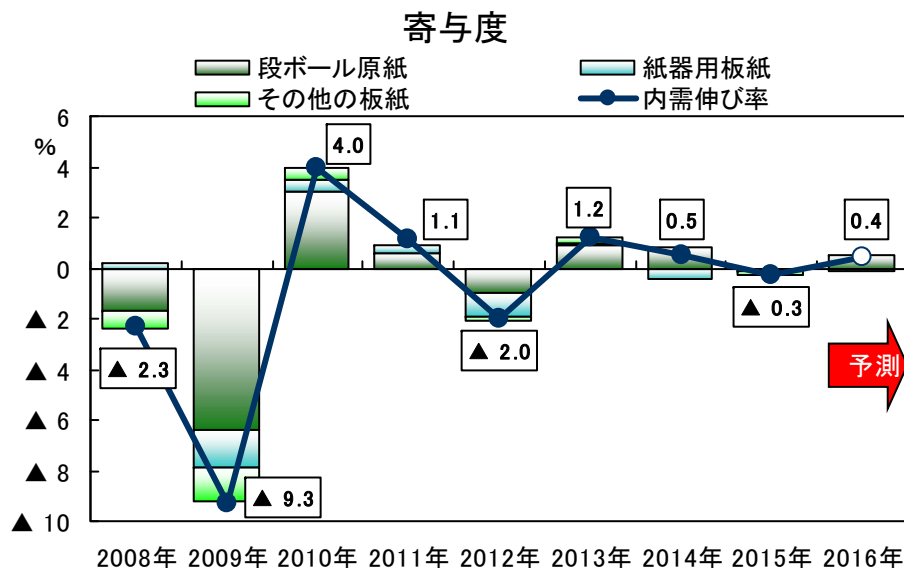


「近年の動向」

★板紙の内需は、リーマン・ショック直後の2009年に大きく減少した。2010年は前年の大幅減の反動増もあり4年ぶりに増加、2011年は大震災後の被災地支援等がプラスに寄与し、2年連続で前年を上回った。2012年は輸出関連需要の減少等から前年を下回ったが、2013年以降は堅調な食品需要に支えられ、3年連続で増加した。

「2016年予測」

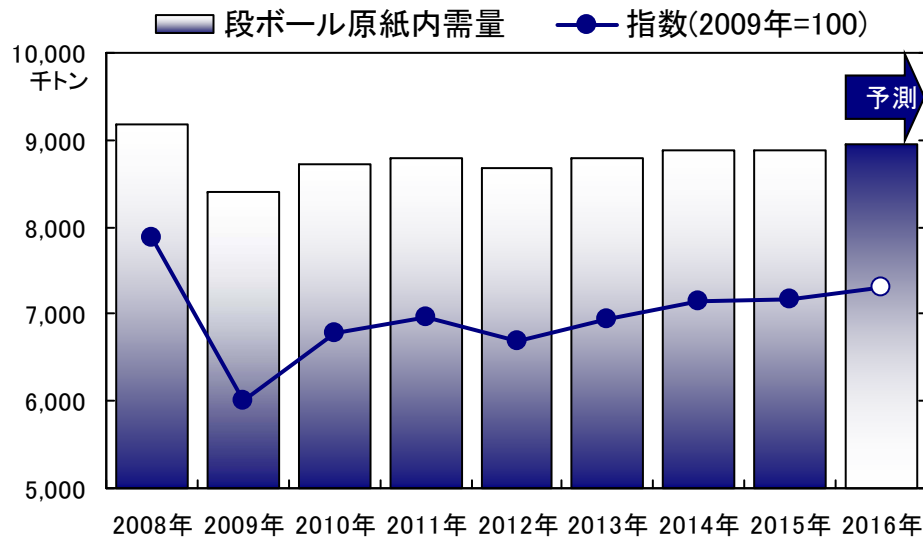
☆主要品種について、主力の段ボール原紙は0.7%増、他方、紙器用板紙は0.6%減(うち白板紙は0.7%減)とマイナスを見込んだ。



☆板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,157万トン、前年に対して0.4%増、約5万トンの増加となる。リーマン・ショック後では、2009年(1,105万トン)に対し104.7%、約52万トンの増加となる。

☆品種別寄与度について、段ボール原紙は0.5pt増、紙器用板紙は0.1pt減、その他の板紙が0.0pt減と主力の段ボール原紙が牽引する。

JPA (8) 段ボール原紙①



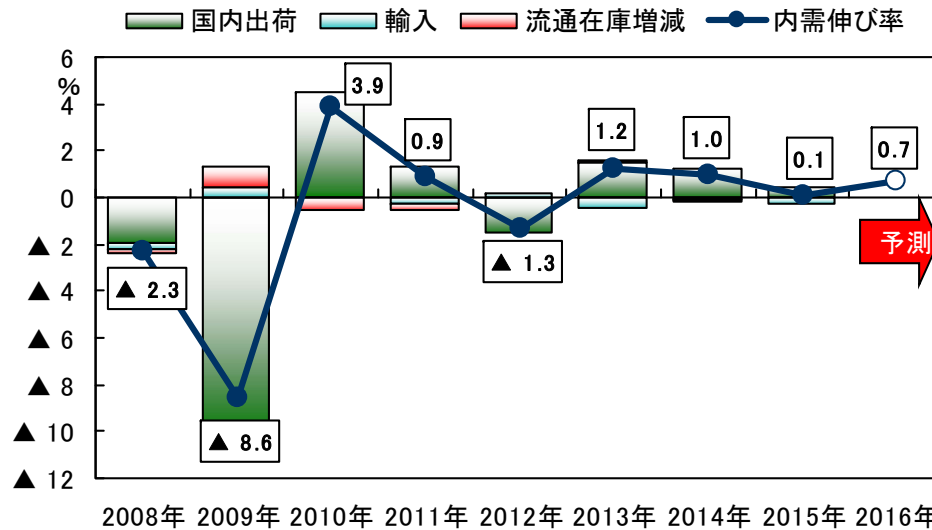
「近年の動向」

★段ボール原紙の内需は2009年に経済状況の悪化から大幅なマイナスとなった。2010年は前年の落ち込みの反動等から3年ぶりのプラスに転じたが、前々年(2008年)をかなり下回る水準に止まった。2012年は電気・機械器具向けの不振等から前年を下回ったが、2013年以降は飲料を含めた加工食品向けの増加等から、3年連続で前年を上回った。

「2016年予測」

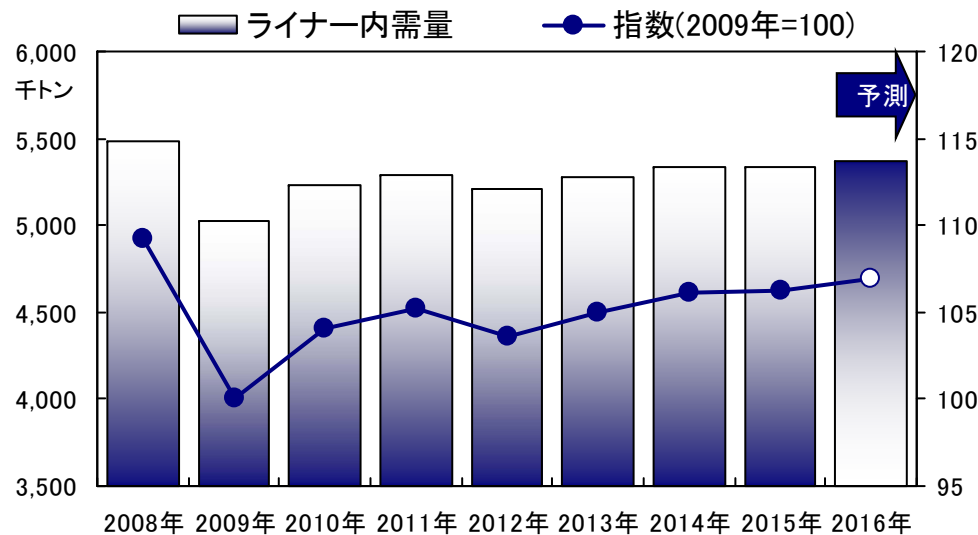
☆全国段ボール工業組合連合会(全段連)の需要予測によれば、段ボールシートの生産は1.2%増とプラスを見通している。主要分野では、電気・機械器具向けは前年並みを予想しているが、過半を占める加工食品等の食品向けはプラスと見ている。段ボール原紙については、これらの需要動向を参考に、近年の原紙の軽量化を加味し、プラスを見込んだ。

寄与度



☆以上を勘案し、段ボール原紙の内需は前年に対し0.7%の増加(ライナー:0.7%増、中芯原紙:0.7%増)を見込んだ。

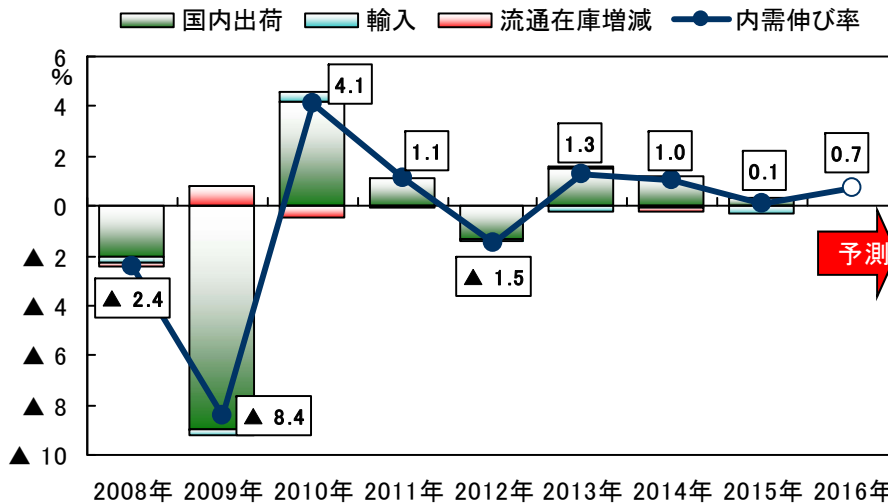
JPA (8) 段ボール原紙②



「2016年予測:分野別の需要動向」

☆加工食品向け(2015年1-10月需要部門別構成比:42.8%、以下同じ)は、冷凍食品は内食化の定着や中食市場の拡大、さらにインバウンド需要もプラスに寄与し増加が見込まれ、菓子分野はチョコレートやスナック菓子を中心に堅調と予想される。飲料関係では、ビール類は、「ビール」は麦芽100%ビールが堅調なことから前年並みが期待されるが、「発泡酒」及び「新ジャンル」は減少すると見られ、ビール類全体では前年を下回ることが予想される。清涼飲料は、ミネラルウォーターや炭酸飲料は増加が予想され、茶系飲料も堅調と見られるため、増加が見込まれる。全体では前年を上回ることが予想される。

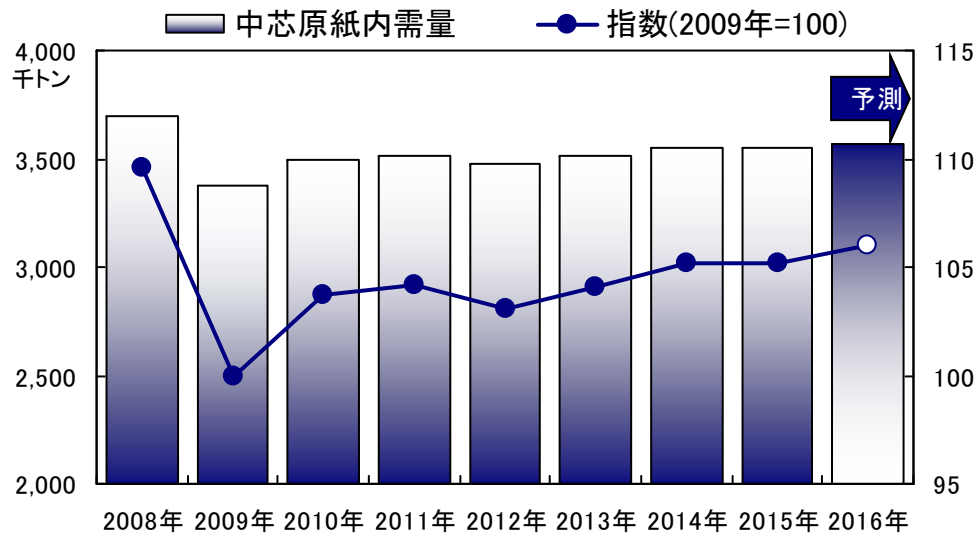
寄与度



☆青果物向け(構成比:11.1%)は、農業人口や作付け面積の減少傾向から伸びは期待できないものの、食品の安全問題による国産品へのシフトや内食化の定着もあり、前年並みが予想される。

☆電気器具・機械器具向け(構成比:7.3%)は、円安により輸出関連需要や国内生産の増加は見込まれ、また消費増税前の駆け込み需要も期待されるが、中国の景気後退や海外生産移管の影響が残り、前年並みが予想される。

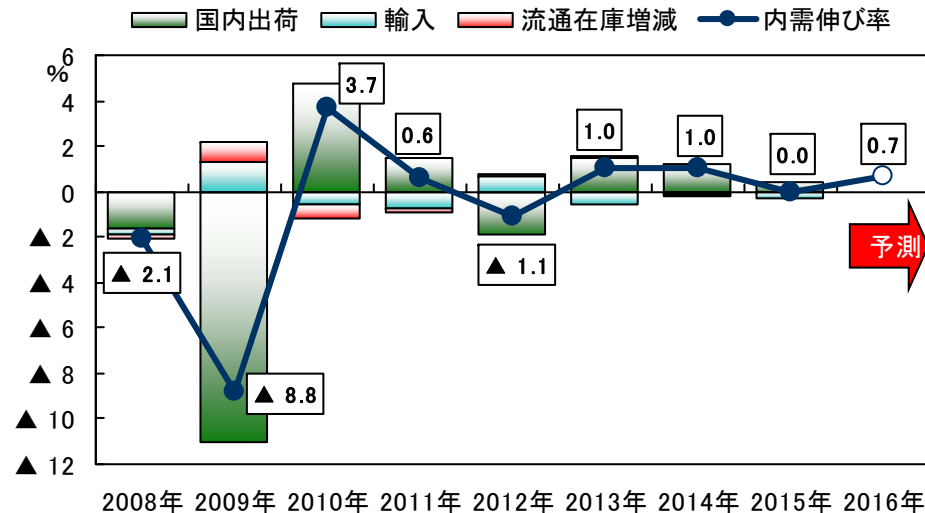
JPA (8) 段ボール原紙—③



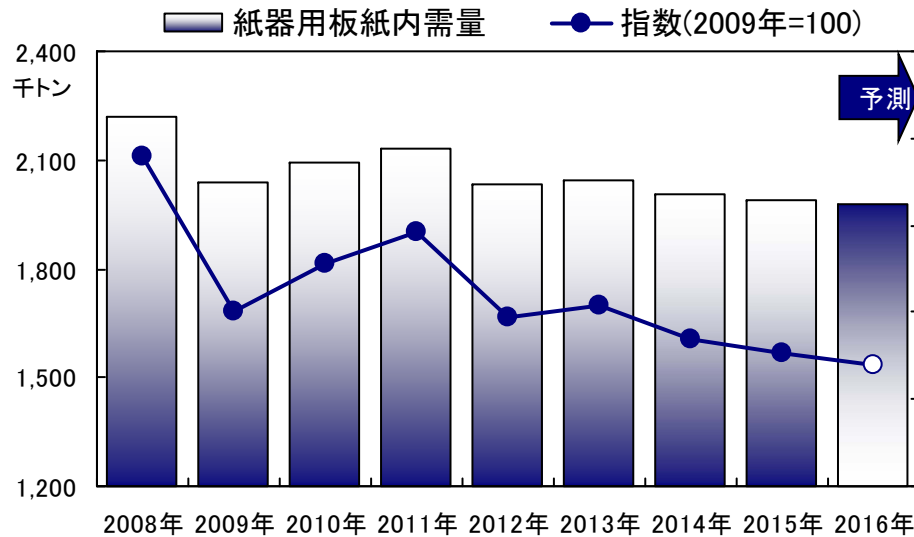
「2016年予測:分野別の需要動向」

- ☆薬品・洗剤・化粧品向け(構成比:6.2%)は、高齢化社会による需要増や、ジェネリック医薬品の増加、さらにインバウンド需要(爆買い)も期待され、前年を上回ることが予想される。
- ☆陶磁器・ガラス製品・雑貨向け(構成比:5.1%)は、消費者の節約志向は依然根強いものの、住宅着工戸数の増加による需要増は期待され、前年を上回ることが予想される。
- ☆通販・宅配・引越向け(構成比:4.6%)は、ネット通販を中心に需要は拡大しており、スマートフォンの普及や高齢化社会は追い風になると見られ、増加が予想される。
- ☆繊維製品向け(構成比:1.8%)は、消費者の節約志向や少子化はあるものの、衣料品の低価格品市場は堅調で、円安による国産回帰も見られることから、前年並みと予想される。

寄与度



JPA (9) 紙器用板紙—①



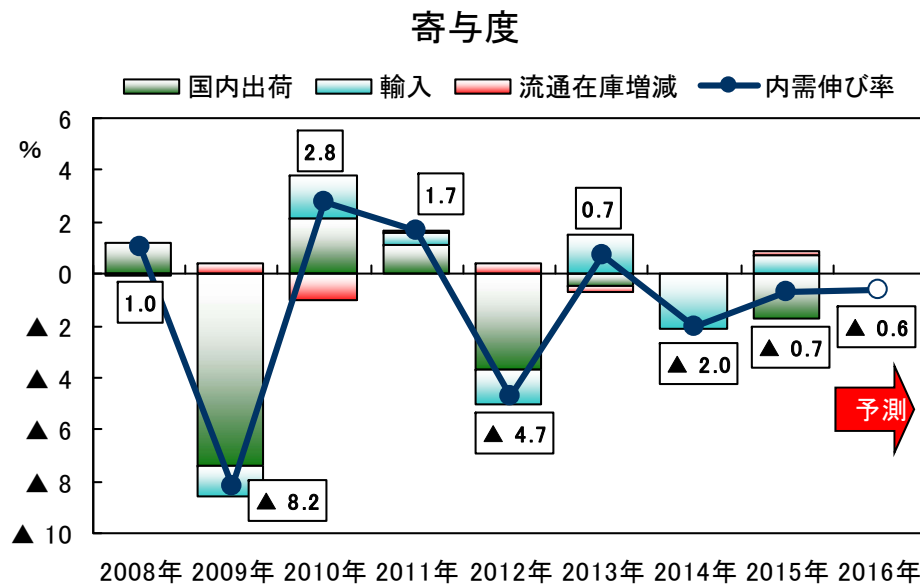
「近年の動向」

★紙器用板紙の内需は2009年に経済状況の悪化から大幅に低下した。2010年は弱いながらも前年の落ち込みの反動等からプラスに転じ、2011年は大震災後の支援物資需要もあり2年連続で前年を上回ったが、2012年は前年の大震災による特需反動から3年ぶりのマイナスとなった。2013年は微増となったが、2014年は食品安全問題による大手ファーストフードの不振等により、2015年は食品や菓子等の値上げを背景としたユーザーの在庫調整により、2年連続で前年を下回った。

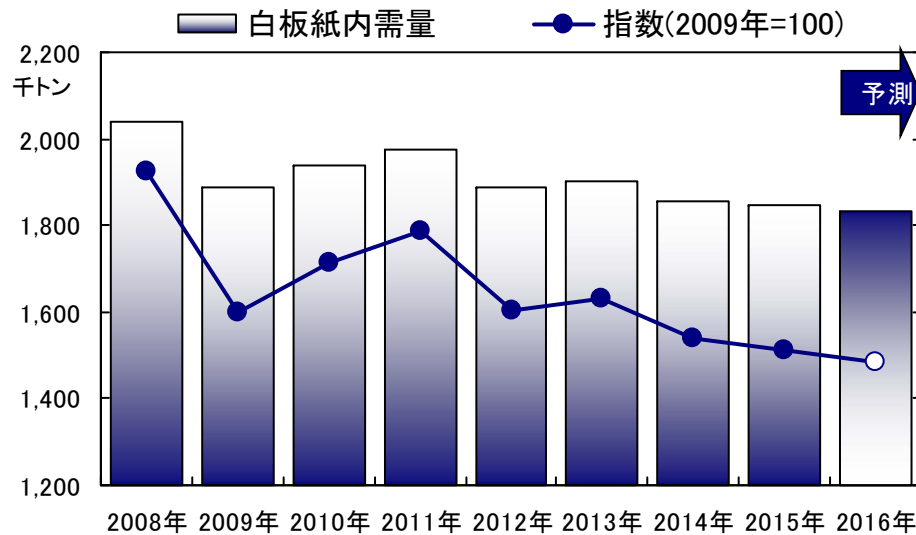
「2016年予測」

☆内食化の定着やインバウンド需要により食品関連は堅調と見られるが、需要家のコスト意識は依然強く、箱の小型化や軟包装化は引き続き懸念される。また、一部需要先である印刷分野は、出版向けを中心に減少が見込まれ、全体では前年を下回ると予想される。

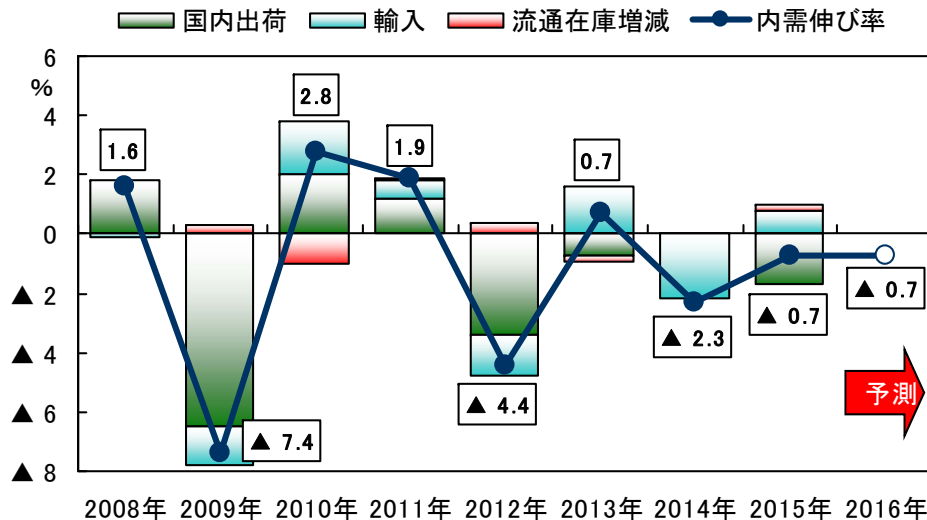
☆以上を勘案し、紙器用板紙の内需は前年に対し0.6%の減少(白板紙:0.7%減、黄・チップ・色板紙:0.0%)を見込んだ。



JPA (9) 紙器用板紙—②



寄与度



「2016年予測:分野別の需要動向」

☆食品向けは、低価格志向や節約志向により内食化は継続すると見られる。その中で、レトルト食品はカレー類を中心に増加が予想され、近年増加しているコンビニの食品向けは、カウンター商品等の強化により堅調と見られる。菓子関係は、チョコレートやビスケットで増加が予想され、春のイースターや秋のハロウィンといったイベントも追い風になると見られる。食品向け全体では、箱の小型化や軟包装化等による影響が懸念され、前年並みと予想される。

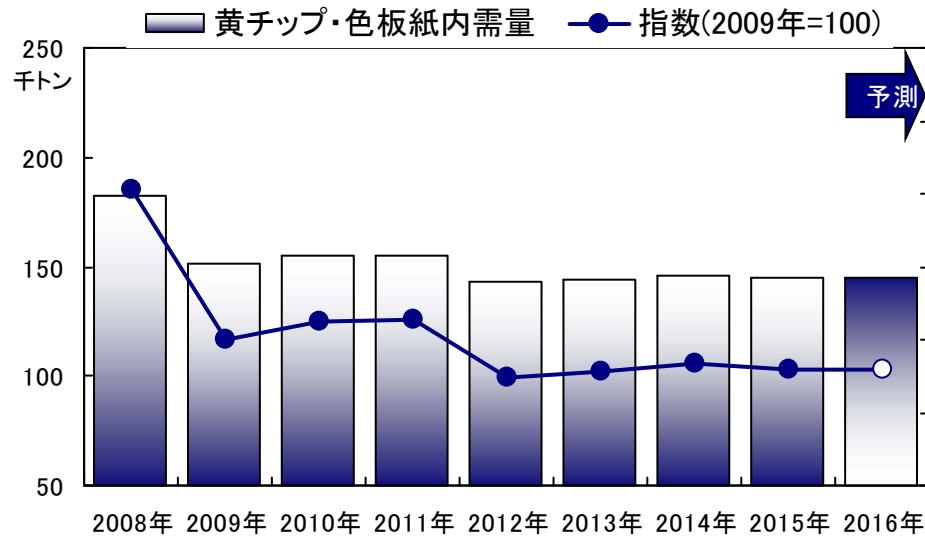
☆医薬・化粧・日用品向けは、ジェネリック医薬品や漢方薬は増加が予想され、インバウンド需要(爆買い)も期待される。また高齢化社会や健康志向の高まりは追い風となり、増加が予想される。

☆洗剤向けは、粉末から液体や第三の洗剤(ジェル)へのシフトもあり、減少が予想される。

☆ティッシュ向けは、生活必需品としての底堅い需要があり、前年並みと予想される。

(次頁に続く)

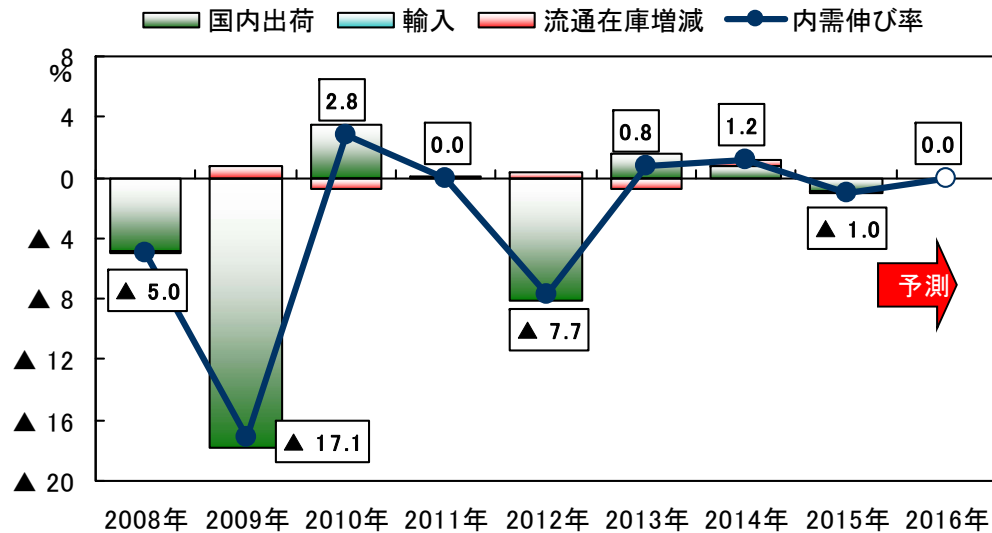
JPA (9) 紙器用板紙—③



「2016年予測:分野別の需要動向」

- ☆商業印刷向けは、店頭販促品であるPOPは堅調と見込まれるが、トレーディングカードはヒット案件に乏しく、他素材へのシフトもあるため減少が予想される。全体では前年並みと予想される。
- ☆出版印刷向けは、定期刊行物の休廃刊や発行部数の減少により、引き続き前年を下回ると予想される。
- ☆文具事務用品向けは、少子化や電子化の浸透を背景に、ファイル類の減少傾向は引き続き予想される。

寄与度



JPA Ⅲ. 2015年 紙・板紙内需実績見込み

(単位:ト、%)

品 種	国内出荷		輸 入		計		流通在庫増減	内 需 計		15年連合会 内需予測 (B)	伸び率誤差 (A)-(B)	
		前年比		前年比		前年比			前年比(A)			
紙	新聞用紙	2,994,081	▲ 4.7	39,195	▲ 1.7	3,033,276	▲ 4.6	0	3,033,276	▲ 4.6	▲ 3.0	▲ 1.6
	非塗工印刷用紙	1,976,454	▲ 2.9	147,705	▲ 15.5	2,124,159	▲ 3.9	▲ 1,410	2,125,569	▲ 4.7	▲ 3.0	▲ 1.7
	塗工印刷用紙	4,441,880	▲ 1.5	505,211	▲ 19.6	4,947,091	▲ 3.7	▲ 17,952	4,965,043	▲ 4.0	▲ 3.0	▲ 1.0
	情報用紙	1,306,595	▲ 2.3	516,538	2.3	1,823,133	▲ 1.0	11,602	1,811,531	▲ 1.0	▲ 0.5	▲ 0.5
	印刷・情報用紙計	7,724,929	▲ 2.0	1,169,454	▲ 10.6	8,894,383	▲ 3.2	▲ 7,760	8,902,143	▲ 3.6	▲ 2.5	▲ 1.1
	未ざらし包装紙	466,046	▲ 4.9	6,758	▲ 7.5	472,804	▲ 4.9	734	472,070	▲ 4.9	▲ 0.9	▲ 4.0
	ざらし包装紙	256,125	▲ 4.7	1,300	▲ 17.4	257,425	▲ 4.7	▲ 707	258,132	▲ 4.3	▲ 1.2	▲ 3.1
	包装用紙計	722,171	▲ 4.8	8,058	▲ 9.2	730,229	▲ 4.8	27	730,202	▲ 4.7	▲ 1.0	▲ 3.7
	衛生用紙	1,756,575	▲ 0.5	177,495	▲ 0.9	1,934,070	▲ 0.5	0	1,934,070	▲ 0.5	0.5	▲ 1.0
	雑種紙	728,694	▲ 1.2	17,353	▲ 13.7	746,047	▲ 1.5	0	746,047	▲ 1.5	0.5	▲ 2.0
	紙 計	13,926,450	▲ 2.5	1,411,555	▲ 9.3	15,338,005	▲ 3.2	▲ 7,733	15,345,738	▲ 3.4	▲ 2.0	▲ 1.4
板紙	ライナー	5,289,135	0.3	46,400	▲ 23.5	5,335,535	0.1	1,635	5,333,900	0.1	0.7	▲ 0.6
	中芯原紙	3,539,303	0.4	10,168	▲ 54.9	3,549,471	0.0	972	3,548,499	0.0	0.7	▲ 0.7
	段ボール原紙計	8,828,438	0.4	56,568	▲ 32.0	8,885,006	0.1	2,607	8,882,399	0.1	0.7	▲ 0.6
	白板紙	1,393,773	▲ 2.2	448,895	3.4	1,842,668	▲ 0.9	▲ 1,961	1,844,629	▲ 0.7	0.4	▲ 1.1
	黄チップ・色板	144,711	▲ 0.9	0	-	144,711	▲ 0.9	12	144,699	▲ 1.0	▲ 0.7	▲ 0.3
	紙器用板紙	1,538,484	▲ 2.1	448,895	3.4	1,987,379	▲ 0.9	▲ 1,949	1,989,328	▲ 0.7	0.4	▲ 1.1
	その他の板紙	637,283	▲ 3.9	13,387	25.8	650,670	▲ 3.4	415	650,255	▲ 3.5	0.5	▲ 4.0
	板 紙 計	11,004,205	▲ 0.2	518,850	▲ 1.7	11,523,055	▲ 0.3	1,073	11,521,982	▲ 0.3	0.6	▲ 0.9
紙・板紙計	24,930,655	▲ 1.5	1,930,405	▲ 7.4	26,861,060	▲ 2.0	▲ 6,660	26,867,720	▲ 2.1	▲ 0.9	▲ 1.2	

注) 1) 国内出荷: 雑種紙は塗工印刷用原紙を除く。

2) 輸入: 新聞用紙は日本製紙連合会並びに日本新聞協会調べ。通関との差し引き分は非塗工印刷用紙に計上した。

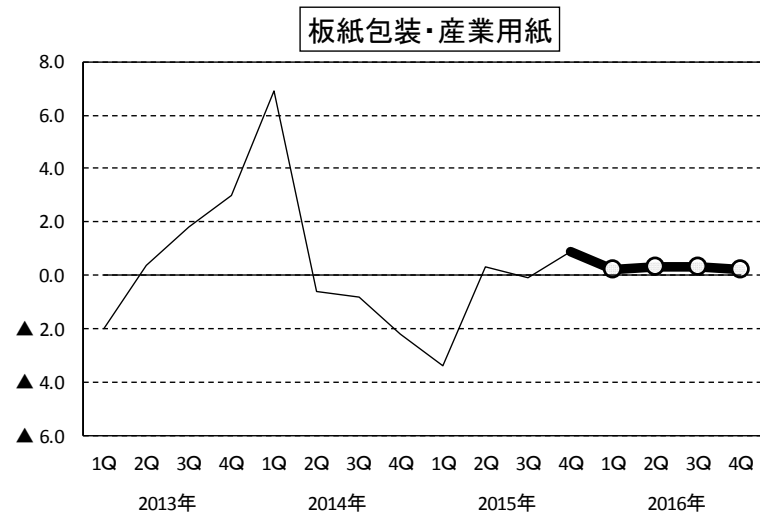
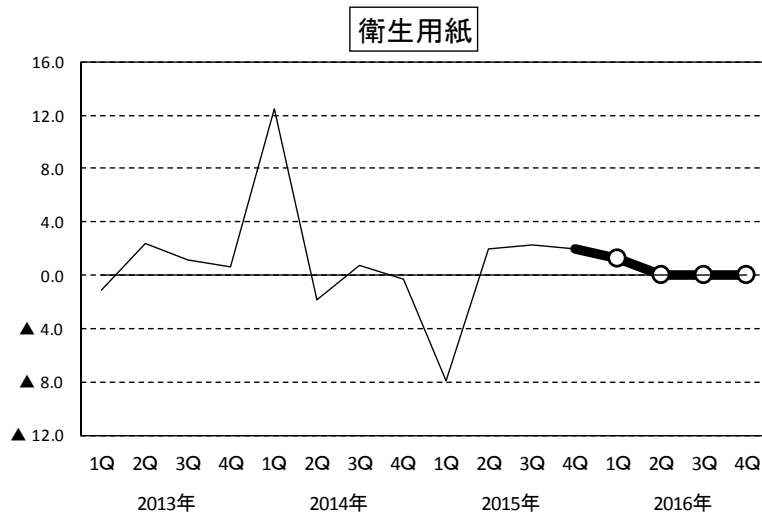
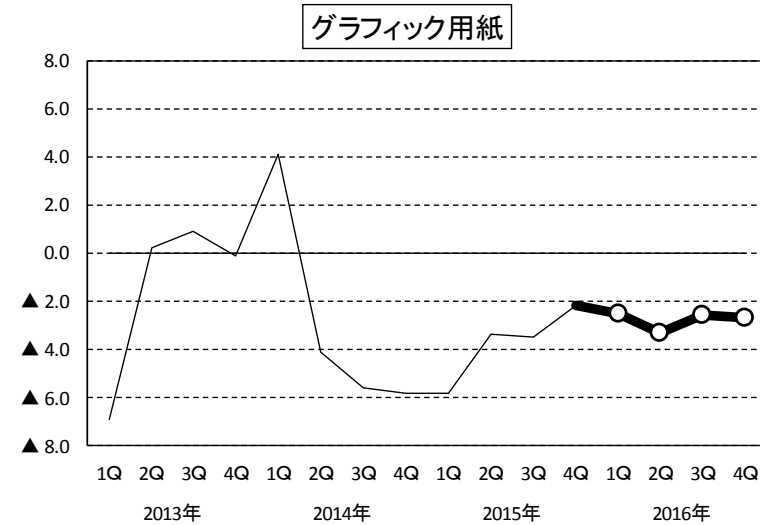
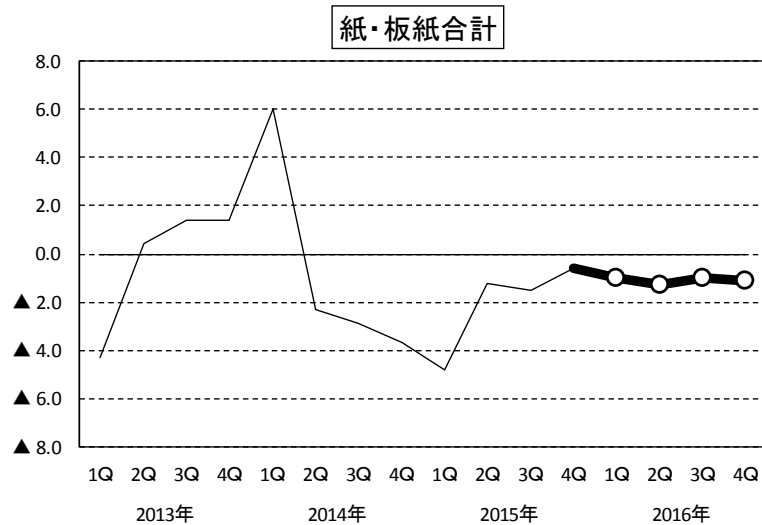
重袋用クラフト紙は全量を未ざらし包装紙に計上した。

衛生用紙は製品輸入を含む。

白板紙はミルクカートン用紙を含む。

JPA IV. 参考①品種別内需伸び率の推移(四半期見通し)

(単位: %)



JPA 参考②

内需の定義について

「内需」は、国内出荷に輸入を加えた上で、流通在庫の増減分を加味して算出している。なお、輸入には、「原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品及び原紙に類似した紙製品」として、ティシュペーパー、トイレットペーパー及びミルクカートン用紙(ポリエチレンラミネートしたもの)を含めている。

$$\text{内需量} = \text{国内出荷量} + \text{輸入量} + \text{流通在庫量の前年比増減量}$$

予測の仕方について

内需量は主要品種別に、ユーザー、流通、製紙企業それぞれの担当者へのヒアリングによる積み上げを基に試算している。

なお、予測値及び見込み数値等は2016年1月13日時点で得られた情報を基に作成した。

包装用紙内需試算について

今回の試算より、包装用紙については「未ざらし包装紙」「ざらし包装紙」を統合し、一本にした。